

## 市民交流プログラム・特別展覧会

### 「ぐるぐるボカン ～まわる！はしる！つるおかの自然」

会場：鶴岡アートフォーラム ギャラリー1・2  
2010年7月24日(土)～8月22日(日)  
26日間 月曜休館

997-0035 山形県鶴岡市馬場町13-3  
T/0235-29-0260 F/0235-22-6051  
E-mail/info@t-artforum.net

鶴岡アートフォーラム(担当：小林・栗山)

このたび鶴岡アートフォーラムは、昨夏に当館で開催した親子ワークショップ「たべる！はかる！美味しくアート！」に続く企画として、造形作家 タムラサトルによる市民交流プログラム「ぐるぐるボカン ～まわる！はしる！つるおかの自然」を開催します。

巨大なワニがモーターの力でぐるぐる高速回転する《スピンドロコダイル》、山が山を登っていく《Double Mountain》、様々なものの重さを調節することを作品化した《Weight Sculpture》シリーズなど、タムラサトルの作品はどれもインパクトがありユニークです。

物体や素材に付きまとう「意味」を、それらを高速回転させたり、とある正確な数値にするとといった行動によって振り落とし、「それはそれ以外のなにものでもない」ということを明示することが、タムラサトルの作品テーマです。

本展は、造形作家 タムラサトルの過去最大規模の個展として、「鶴岡の自然」をテーマに、月山やクマ・釣り・クラゲ・雷などを取りあげ、山、海、平野へと広がる豊かな自然を作家の独自の視点でとらえた新作やこれまでの代表作品を多数紹介します。

また昨夏に行われた鶴岡の名産品を扱った親子ワークショップの成果も展覧会場で初公開します。

#### \*市民交流プログラム

作品展示という従来の展覧会形式にとどまらず、市民とアーティストとの交流を通じて作品世界の理解を深め、さまざまな芸術表現に親しむ機会をつくることを目的とした普及企画です。

#### ■展覧会

市民交流プログラム

「ぐるぐるボカン

～まわる！はしる！つるおかの自然」

【会期】2010年7月24日(土)～8月22日(日)  
26日間  
月曜休館

【場所】鶴岡アートフォーラムギャラリー1・2ほか

【開場時間】10:00-19:00 (入場は18:30まで)

#### 【観覧料】

一般 300 (240) 円／高校・大学生 200 (160) 円  
中学生以下は無料

( ) 内は20名以上の団体料金

\*心身障害者の方は半額、介助者は無料

\*学校の教育活動として観覧する場合(引率教員含む)は無料

\*高校・大学生には高専生、専門学校生を含む。

主催：鶴岡アートフォーラム/鶴岡市教育委員会

協力：Takuro Someya Contemporary Art/オリエンタルモーター株式会社  
/中島商会/野洲工業株式会社

▼裏面もご覧ください

## ■関連企画

### (1) アーティスト・トーク

「めぐる！ぐるぐるボカンの世界」

出品作家のタムラサトルさんを迎えて、会場で作品解説を行います。

【日時】7月24日(土)13:30~14:30

【参加】申込不要、無料(要観覧券)

\*会場へ直接お越しください

### (2) ワークショップ

「まわる！つるおかザウラスをつくろう」

空想上の怪獣「つるおかザウラス」を紙粘土で作ります。「つるおかザウラス」にモーターを取り付けぐるぐるまわって完成です。完成作品は展覧会場に展示します。

【日時】7月24日(土)15:00~16:30

【参加】要事前申込、先着順

(7/4~ 来館または電話受付)

\*別紙「夏休みワークショップ」プレスリリースにも記載

### (3) 2009年親子ワークショップ作品公開

「たべる、はかる、美味しくアート！」

昨夏、鶴岡の名産品であるだだちゃ豆と南禅寺豆腐を使って制作した、アーティストと参加者とのワークショップの成果を展覧会場で初公開します。

\*掲載において作家顔写真・作品図版の使用を希望される際は、データをご提供しますので、鶴岡アートフォーラムまでご連絡ください。メールにてJPEG画像を送付いたします。

\*タムラサトル氏は下記の日程で、鶴岡に滞在予定です。インタビュー等取材のご協力をお願いします。  
滞在予定：2010年7月13日(火) - 25日(日)

## 内覧会のお知らせ

展覧会の開幕に先がけ、下記の日程で内覧会を行います。

2010年7月23日(金) 午後5時~(約1時間)

タムラサトル氏による作品解説があります。

場所…鶴岡アートフォーラム内ギャラリー

## ■アーティスト・プロフィール



タムラサトル  
(たむら・さとる)

栃木県生まれ。「動物」「重さ」「電気」などをキーワードに“動く作品”や“光る作品”などを制作する造形作家。即物的でシュールかつユーモラスな作風により国内外で注目を集めている。

物質や素材に付随する意味を無視/破壊するというコンセプトにもとづき作品を次々と発表し、既成のアート概念に新たな刺激を与え続けている。

2002年、「フィリップモリスアートアワード」P.S.1賞受賞。2009年、「第12回岡本太郎現代芸術賞」特別賞受賞。

現在、自身の制作・発表のほか、ワークショップや一般市民との共同制作など幅広く活動中。

## ■参考作品(下図)

《スピנקロコダイルⅡ》1999年

400×400×180cm

ウレタン、鉄、モーター

カラフルで巨大なワニの立体物がモーターの力でぐるぐると回転します。

ワニやそれが回転することに様々な意味がはりつきそうですが、プロペラが立てるごう音と高速回転が、それらの意味を吹き飛ばします。

回転するワニは回転するワニでしかないのです。

展覧会では沢山のカラフルなワニが一同に展示されます。

